資料-5

# 石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）

# 基本構想（案）　参考資料

平成２６年２月

# はじめに

この参考資料は、「石巻市南浜地区復興祈念公園（仮称）基本構想（案）」に対する意見募集（パブリックコメント）にあたり、当該基本構想（案）の内容を補足し、また参考となる資料をまとめたものである。

## ー 目 次 ー

はじめに

１．南浜地区の立地 ･････････････････････････････････････････････････ 1

２．南浜地区の土地の履歴･････････････････････････････････････････････ 2

３．南浜地区の立地 ･････････････････････････････････････････････････ 14

# １．南浜地区の立地

石巻市は宮城県北東部にあって、奥羽山脈と北上高地の間を流れる東北最長の河川、北上川の下流から河口に位置するまちである。市のほぼ中央には旧北上川が南北に縦断し、右岸から西の地域は仙台平野の東端部となり、広い石巻平野と北上川がもたらした肥沃な土壌から稲作を中心とした農地が多い。旧北上川左岸から東の地域は北上山地とリアス式海岸によって複雑な地形をしており、平地が少ない。

南浜地区は、旧北上川の右岸河口部の標高1m程度の低地で、石巻平野とリアス式海岸の接合部に立地する。地区の北側は標高56.4mの日和山が位置し、南側は雲雀野海岸越しに太平洋の大海原が広がり東側は旧北上川が流れている。

図１　宮城県石巻市南浜地区の位置

地図:国土地理院　日本周辺図及び新版標準地図より

## ２．南浜地区の土地の履歴

### （１）舟運の時代

海に囲まれた石巻は、豊富な海産資源に恵まれていたため、多くの遺跡が見られるように古くから人々の豊かな暮らしが営まれていた。

古くは鎌倉時代に遡り1189年（文治5年）、奥州合戦の恩賞として牡鹿郡を拝領した葛西清重が日和山で祝宴を催し、日和山城（石巻城）を築いたといわれている。以来、約400年もの間、牡鹿郡は葛西氏の重要な所領となり、日和山はその居城であったとされている。

三陸及び仙台湾沿岸一帯は、1611年（慶長16年）の地震により大津波（慶長地震津波）が発生し、津波の範囲は、少なくとも青森県から岩手県、宮城県の岩沼市に及んでおり、伊達政宗の領地だけで5千人の溺死者があったとされている。石巻の歴史資料からは、慶長津波の被害報告は見当たらないものの、石巻平野における津波堆積物調査において、この時代の堆積物が確認されている。

江戸時代の北上川は、南部藩と仙台藩を結ぶルートとして重要な交通ルートであったが、度重なる洪水を引き起こす暴れ川でもあった。これを改善するため、1616年（元和2年）より、伊達政宗の命を受けた川村孫兵衛が北上川の改修工事に着手した。この工事によって、石巻は江戸廻米の一大集積地となり、奥州の中心的な「川湊のまち」として繁栄した。

また、伊達藩は、北は岩手県の江刺郡から南は福島県の宇田郡の一部にわたっており、石巻から千石船で江戸に米を運び莫大な利益を得ていた。その舟運を可能にしたものが1597年（慶長２年）から川村孫兵衛に命じて行われた貞山掘の開削である。これにより北上川、仙台、阿武隈川が運河によって結ばれ、藩の経済を支えた。

時の俳諧師 松尾芭蕉は、1689年（元禄2年）に石巻を訪れ、1702年（元

禄15年）に刊行した紀行文集「奥の細道」に、この際に目にした川湊のまちの繁栄が、驚きをもって記されている。

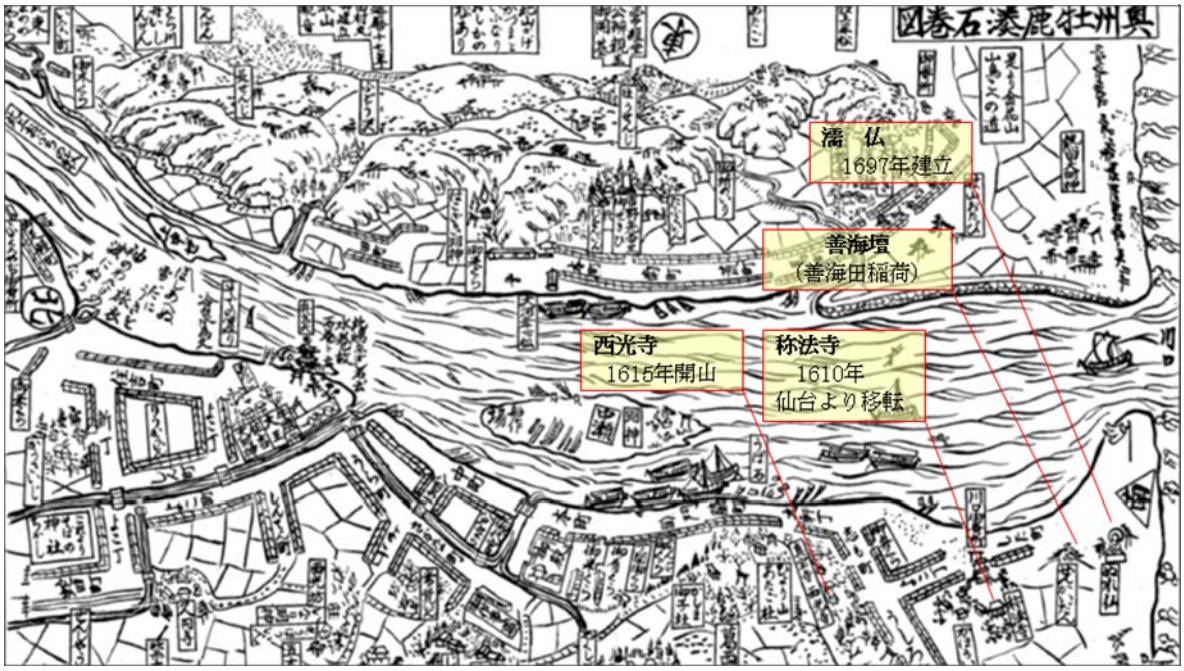



**図２　奥州牡鹿湊石巻図**　1727 年（享保 11 年）頃の北上川河口付近

江戸時代後期の風景画には、東日本大震災において津波被害を受けた門脇地区の西光寺や称法寺も描かれている。また、門脇地区には、蔵屋敷や藩の材木蔵など造船関係の施設、河口穀改番所が存在していた。

一方で、当時の南浜には人家等は存在しておらず、浜堤砂丘の松林と湿地帯が広がり、今もその名を残す濡仏と善海壇（善海田稲荷）が描かれている。

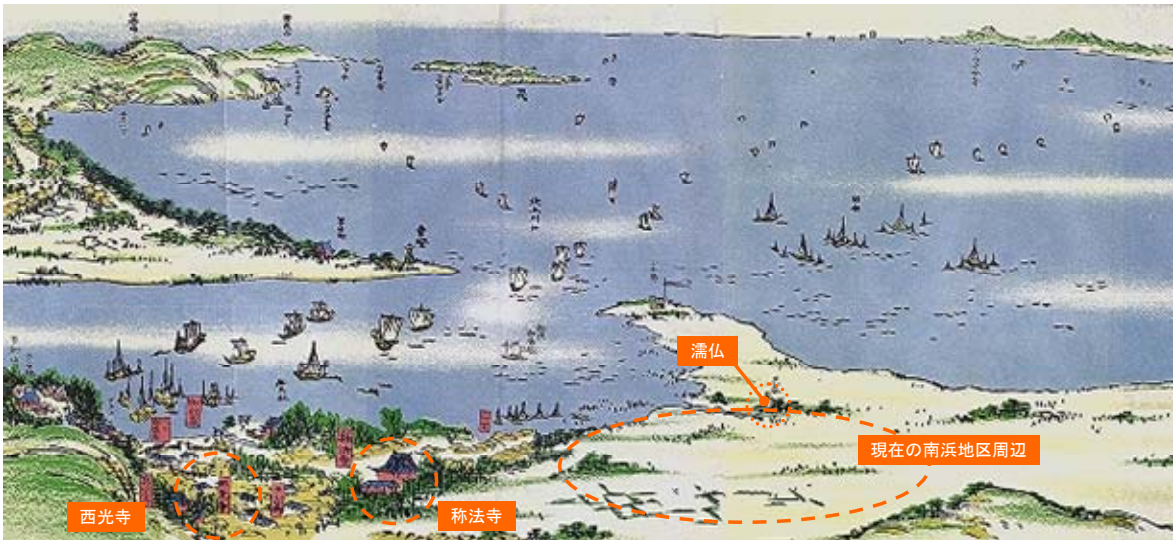



**図３　仙臺石巻湊眺望之全圖の一部を加工・加筆**
1852 年（嘉永 5 年頃）の旧北上川河口付近

濡仏は、1696年（元禄9年）11月に石巻地方を襲った大津波の犠牲者供養のため、徳川家一門が建立を発願し、京都の仏師に制作を依頼した。京都から石巻への船輸送の道中、銚子沖で船が遭難し一旦は海に沈むも、数十年後に石巻の海岸に漂着した。長年海中に沈んでいたため、あたかも潮水を浴びたような様相であったため「濡仏様」と称されていたことが、雲雀山濡仏堂の石碑文「尊像の縁起」に記されている。現在は、東日本大震災の津波により流され、台座を残すのみとなっている。

**写真１　震災前の濡仏** 写真：みちのく悠々万歩計より

## （２）産業化の時代

1887年（明治20年）12月、青森に向けて延伸されていた東北本線の仙台から塩竈に至るルートが開業し、北上川の舟運は衰退したが、蒸気船による観光利用や水上交通の要衝として、川湊としての賑わいは残した。

1912年（大正元年）10月には、後の石巻線となる仙北軽便鉄道が小牛田から石巻間で開業し、川湊としての活気は徐々に失われていった。

明治時代の後期から大正時代になると、南浜地区においても開墾がなされ、湿地と耕作地が混在する地域となった。大正時代の地図によると、桑畑と水田の利用がほとんどであり、家屋はまばらであった。釜入江上流付近では湧水が見られ、湿地が広がっていた。雲雀野海岸付近と聖人堀沿いには松林が存在していた。

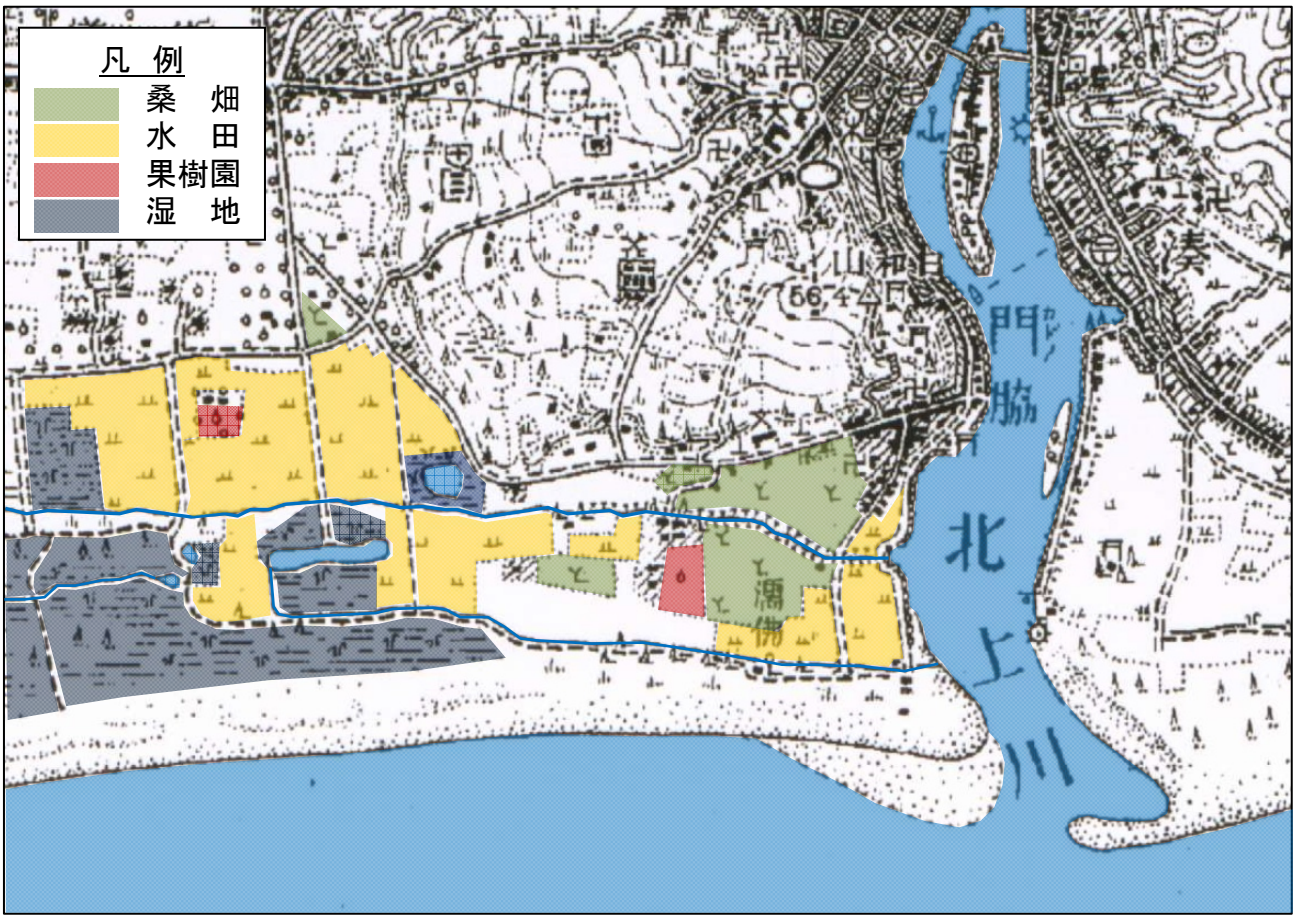



図４　大正時代の南浜地区周辺の状況

地図：日本地図センター作成「1913 年（大正 2 年）頃の石巻町主要部」より一部転載・加筆

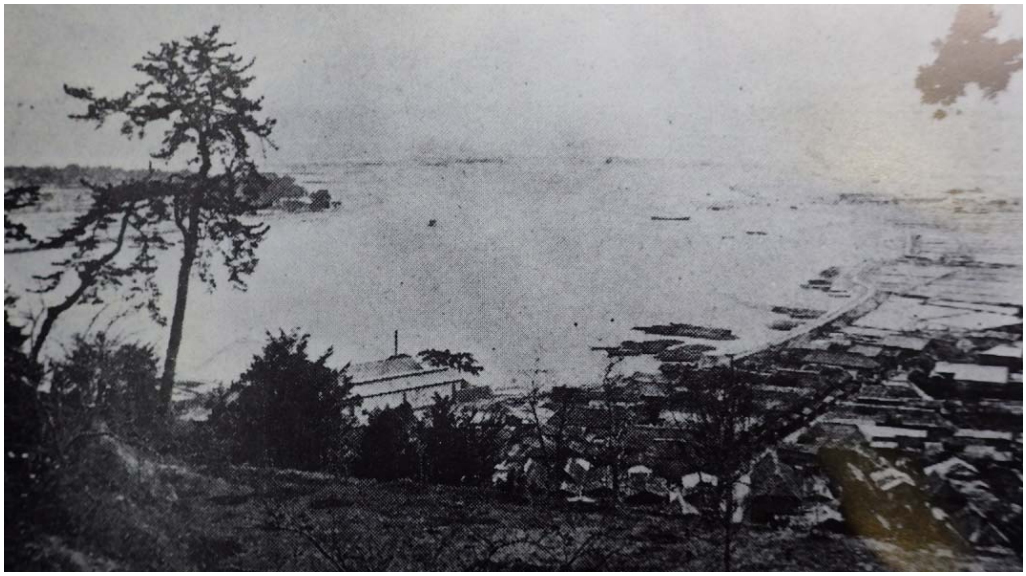


写真 2　1923 年（大正 12 年）の日和山からの俯瞰（右奥に水田が広がっている）

出典：ふるさとの想い出写真集　明治・大正・昭和石巻

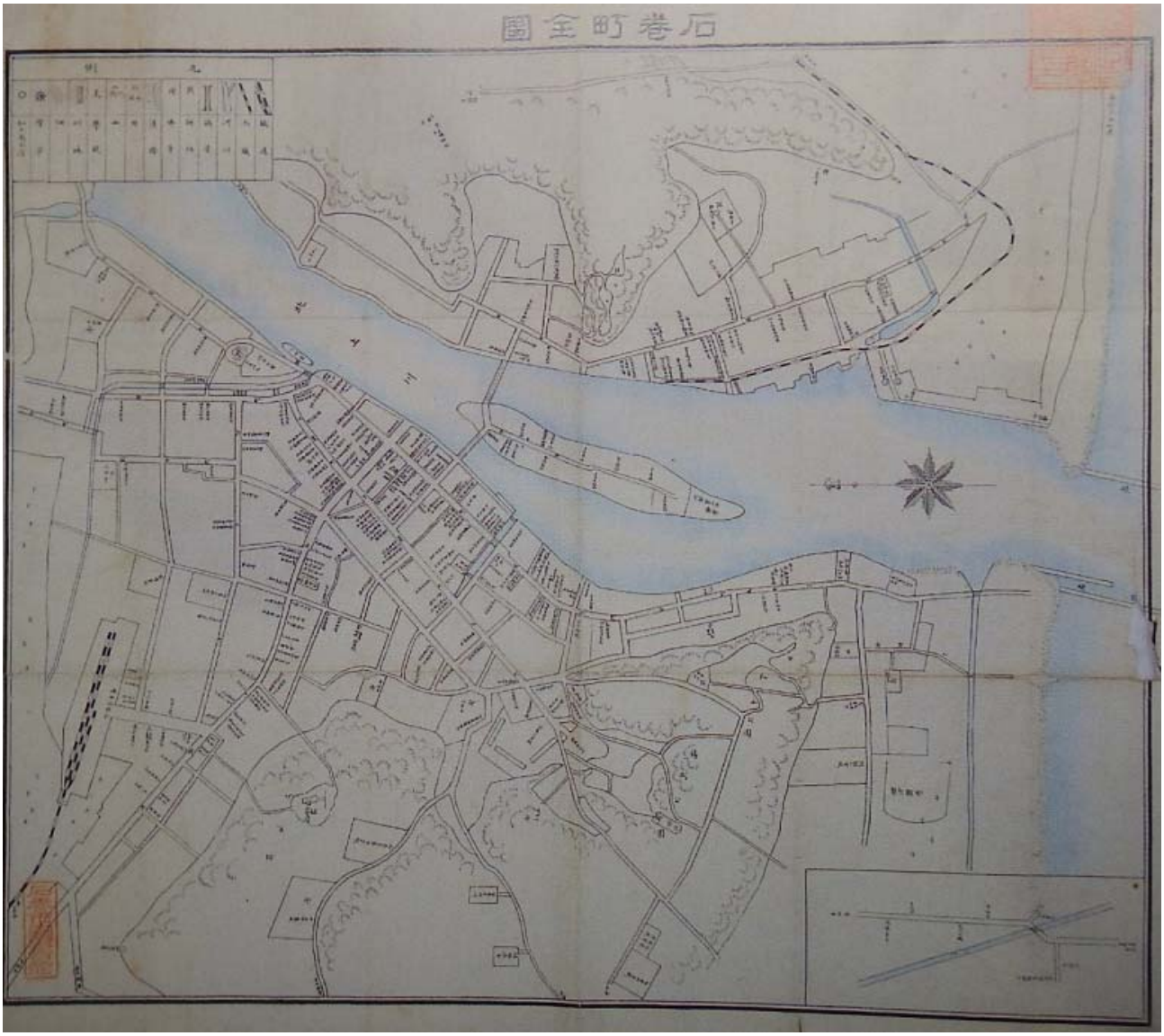



図 5　1926 年（大正 15 年）の石巻町全図【石巻市図書館所蔵】

大正時代の地形は、海岸線に沿って形成された数筋の浜堤列が微高地となり、松林を形成しており、この浜堤砂丘の上を東西に道が通っていた。

また、水系は、浜堤間湿地に集水され、東西に走っていたことがうかがえ、南浜地区を流れる聖人堀は、定川から発し海岸線に平行に流れ、北上川に注いでいた。

**図６　大正時代の南浜地区周辺の自然環境（地形と水系）**

1938年（昭和13年）、王子製紙社長の藤原銀次郎が東北の豊富なブナからパルプを生産するため、東北振興パルプを設立した。東北振興パルプは、1936年（昭和11年）、昭和恐慌や昭和三陸大津波により疲弊した東北地方を救済し、経済振興を促進する目的とした東北興業株式会社法に基づいて設立された東北興業株式会社と協力して石巻に工場を建設し、1940年（昭15年）操業開始する。この東北振興パルプの操業を契機として、南浜地区に社宅などが建設され始めた。

昭和20年代には、漁業関連施設、工業化に伴う輸送施設として、当時は

内港まで貨物線の鉄道が整備されていたなど、産業系の開発が進んだものの、湿地や松林などの自然は残っていた。その後も1979年（昭和54年）に日和大橋が完成するまでは、雲雀野海岸付近には湿地が点在していた。

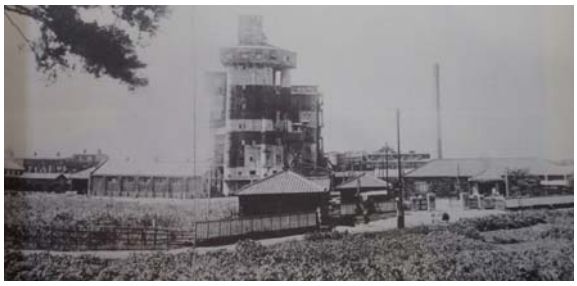
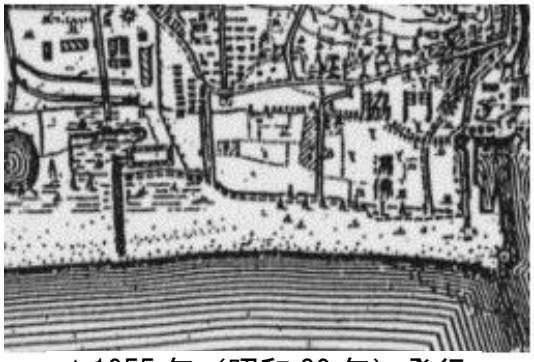


写真 3　創業当初の東北振興パルプ
出典：グラビア石巻＜後編＞

▲1946 年（昭和 21 年）発行

▲1952 年（昭和 27 年）発行



▲1955 年（昭和 30 年）発行

▲1963 年（昭和 38 年）発行

図 7　昭和 20～30 年代の南浜地区「五万分一地形図石巻十号」（内務省地理調査所～国土地理院）

▲雲雀野海岸に見られた湿地
1960 年（昭和 35 年）

▲雲雀野海岸付近の松林
1960 年（昭和 35 年）

写真 4　昭和の高度成長期以前の南浜地区の様子　出典：石巻今はなくなった風景

## （３）市街化の時代

昭和の高度成長期にさしかかった1964年（昭和39年）に石巻市は新産業都市に指定され、昭和42年に石巻工業港が開港し、その周辺での工業集積により内港の機能低下が生じるとともに、住宅需要が増大したことから、土地区画整理事業等により、急激な市街化が進行した。石巻市の工業都市としての発展にともない、また、1979年（昭和54年）の日和大橋の開通により、さらに南浜地区の市街化が進展した。

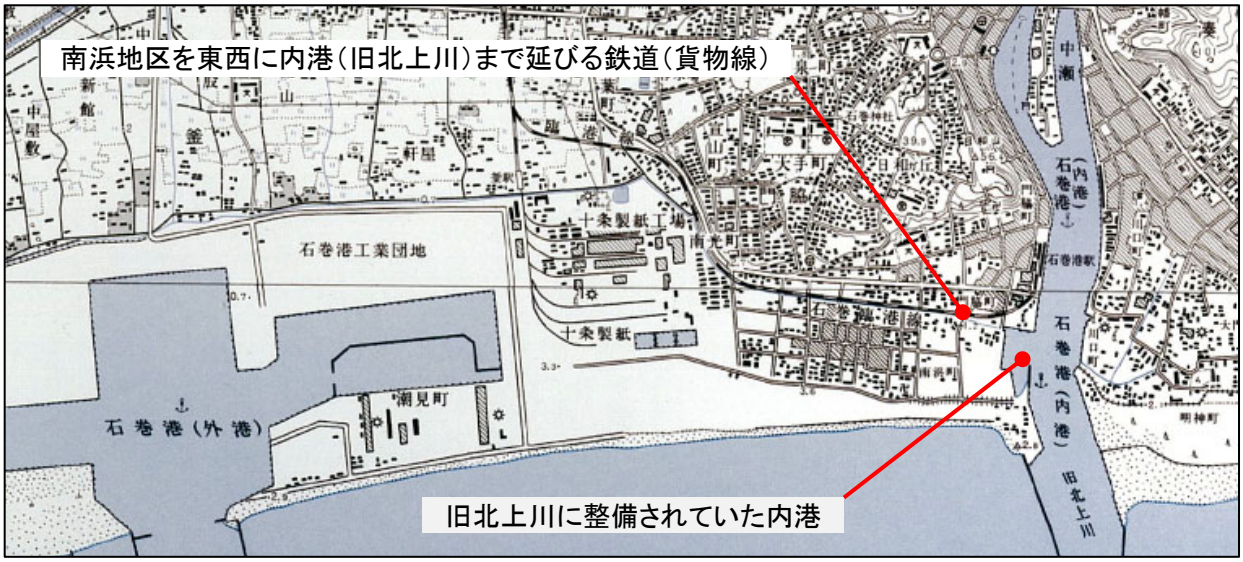
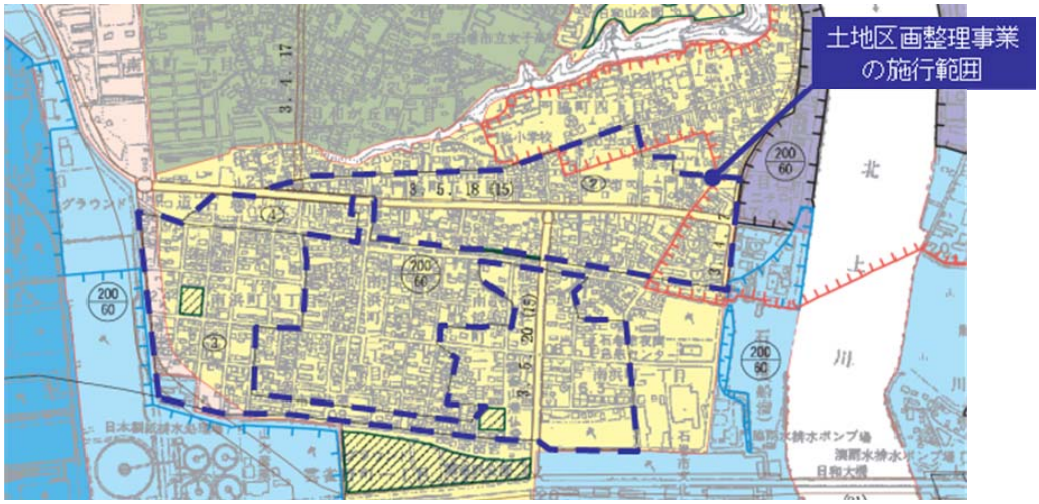


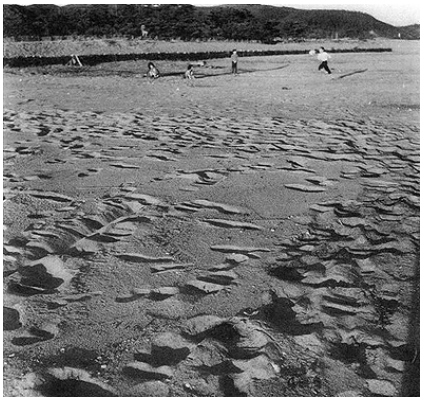

図８　内港に向かって鉄道が整備されていた 1968 年（昭和 43 年）の南浜地区




| 地区名 | 事業主体 | 施行面積 | 都市計画決定年月日 | 事業認可年月日 | 施行年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 門脇地区 | 市 | 13.3ha | 昭29.12.10 | 昭34.5.29 | 昭34～42 |
| 善海田 | 組合 | 19.1ha | | 昭38.2.22 | 昭37～42 |
| 善海田（共同） | 市・組合 | 1.6ha | | 昭39.12.15 | 昭39～41 |

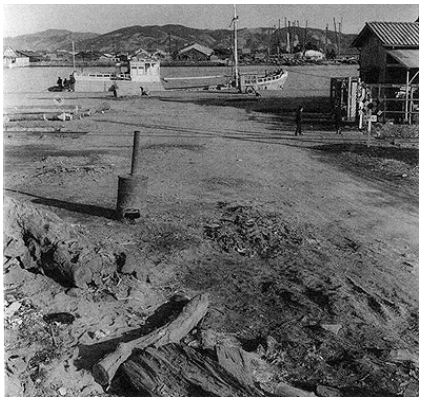
図９　南浜地区で昭和 30 年代から 40 年代はじめにかけて施工された土地区画整理事業

■1960年（昭和35年）



▲雲雀野海岸

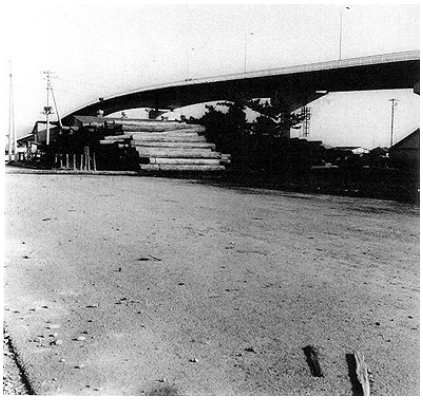
▲門脇字浜裏



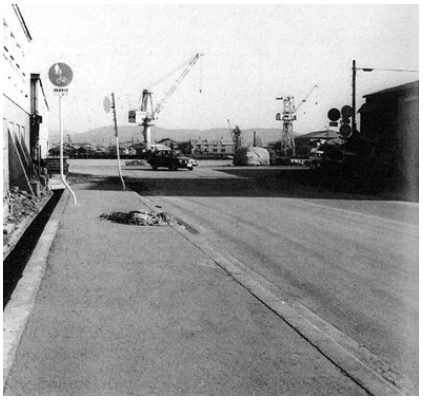
▲門脇字浜横町

■1981年（昭和56年）

▲雲雀野町１町目付近



▲雲雀野町１町目付近



▲門脇町３丁目付近

写真５　市街化が進行する前後の南浜地区周辺の様子　出典：石巻今はなくなった風景

## （４）市街地の成熟

住宅地として成熟した南浜地区は、文化・商業施設の集積も進み、内港地区の利活用の必要性からも、1986年（昭和61年）に石巻文化センター、1998年（平成10年）に石巻市立病院など、市の基幹的施設が建設され、地域の生活環境は充実していった。

2005年（平成17年）4月1日、隣接する桃生郡のうち、桃生町、河南町、河北町、北上町、雄勝町、牡鹿郡のうち、牡鹿町と石巻市が合併して新しい石巻市となった。平成の大合併を契機として、2007年（平成19年）7月10日に「市民憲章をみんなでつくる会」を設置されて議論が重ねられ、2008年（平成20年）4月1日に市民の道標となる市民憲章が制定された。新石巻市民憲章の前文では、「太平洋」や「北上川」という言葉によって、私たち石巻市民の憲章であるということが表わされている。また、石巻を「北上川」の語源を考えられている「日高見」の国とすることにより、先人から受け継がれてきた郷土に対する畏敬の念と市民の郷土に対する愛情が表わされている。

図 10　成熟した南浜地区周辺の市街化 2005 年（平成 17 年）

写真 6　石巻文化センター（左）と石巻市立病院（右）

## 石巻市民憲章

太陽の恵みを受け、 太平洋と北上川に育（はぐく）まれた「日（ひ）高見（たかみ）の国（くに）」。

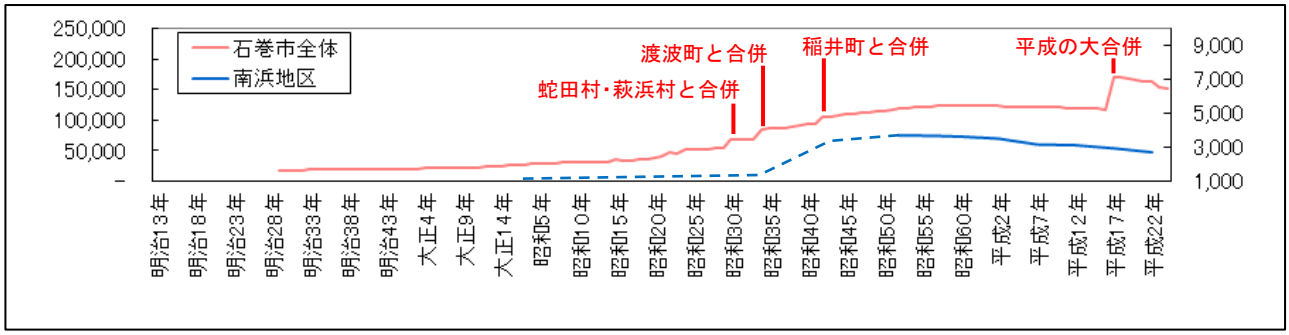
わたしたちは、この美しい郷土を愛し、笑顔あふれる希望のまちをつくり伝えるため、ここに市民憲章を定めます。

まもりたいものがある
それは　生命（いのち）のいとなみ
豊かな自然

つたえたいものがある
それは　先人の知恵
郷土の誇り

たいせつにしたいものがある
それは　人の絆（きずな）
感謝のこころ

わたしたちは　石巻で生きてゆく
共につくろう　輝く未来




石巻市 HP より

| | 明治6年 | 明治11年 | 明治13年 | 明治22年 | | 明治29年 | | | | | 大正元年 | | | 昭和8年 | | 昭和9年 | | 昭和15年 | 昭和20年 | 昭和28年 | 昭和34年 | 昭和35年 | 昭和39年 | 昭和42年 | | 昭和46年 | 昭和50年 | 昭和54年 | 昭和61年 | 平成2年 | | 平成10年 | | | | 平成23年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石巻市全体 | | 北上運河工事起工 | 北上川低水工事起工 | 石巻町誕生 | | 明治三陸地震（津波） | | | | | 石巻線開通 | | | 市制施行 | 昭和三陸地震（津波） | | | | 中瀬の造船所に銃爆撃 | | | チリ沖地震（津波） | 新産業都市に指定 | | | | | | 大正以来初の人口減 | | | | | | 東日本大震災発生 | | |
| 南浜地区周辺 | 門脇小学校開校 | | | | | | | | | | | | | | | 門脇に魚市場開設 | | 東北パルプ創業開始 | | 臨港線運転開始 | 土地区画整理事業開始 | | | 土地区画整理事業完了 | 石巻工業港開港 | 門脇臨港線廃止 | 雲雀野公園完成 | 日和大橋開通 | 文化センター開館 | | | 市立病院開院 | | | | | | |

図 11　石巻市及び南浜地区の主な出来事

# ３．石巻市震災復興基本計画

## （１）石巻市震災復興基本計画の概要

石巻市は、東日本大震災からの将来的な復旧・復興を実現していくための道標として「石巻市震災復興基本計画」を策定した。本計画では、復旧・再生を乗りこえる新たな産業創出や減災のまちづくりなどを推進しながら、快適で住みやすく、市民の夢や希望を実現する「新しい石巻市」の創造を目指し、「災害に強いまちづくり」、「産業・経済の再生」、「絆と協働の共鳴社会づくり」の3つを基本理念に掲げた。復興にあたっては、復旧期、再生期、発展期の3段階のステージが設定され、2020年（平成32年）度までの概ね10年間を計画期間として復興の目標に定めている。

石巻市震災復興基本計画では、L1津波（数十年から百数十年の周期での発生が想定される津波）に対応する防潮堤とL2津波（数百年から千年の周期での発生が想定される津波）に対応する高盛土道路及び防災緑地の多重防御の骨格で市街地を守ることとしている。なお、高盛土道路と防災緑地の第2線堤から海側の地域は、災害危険区域に指定され非可住地に、陸側の地域は現地再建を基本としている。

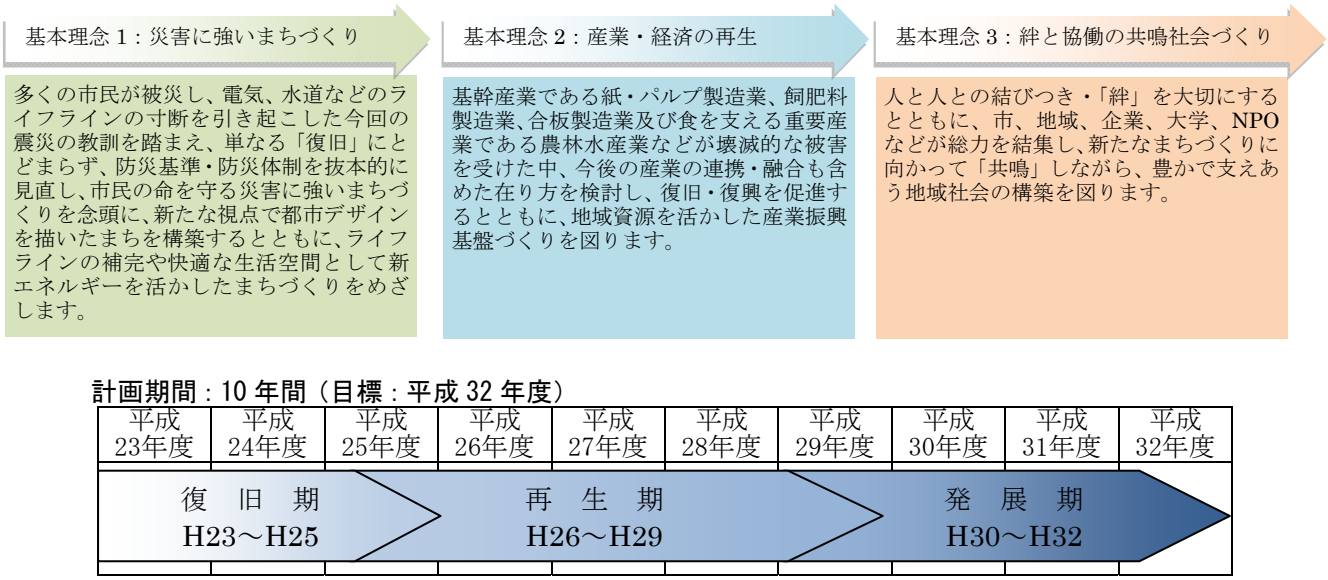



図 12　石巻市震災復興基本計画の工程

図 13　石巻市震災復興基本計画における多重防御の考え方

## （２）南浜地区周辺の復興事業

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた南浜地区周辺では、海岸保全施設災害復旧事業、河川改修事業、土地区画整理事業、防災集団移転促進事業が計画されており、河川改修事業は、一部で工事が始まっている。

L1津波対応としては、海岸堤防と河川堤防が計画されており、雲雀野海岸の海岸堤防は、今次津波の被害状況を踏まえたT.P.+7.2mの高さで検討が進められている。

河川堤防は、上流に向かって徐々に低くなるが、旧北上川河口から1.6kmの日和山麓付近までの区間は、海岸堤防と同じT.P.+7.2mの高さで計画されている。なお、旧北上川河口の新たな河川堤防の整備にあたっては、安全・安心に加え、人々が憩える空間を創造する、水辺を活かした「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」と連携し、旧北上川河口かわまちづくりの検討が進められている。

L2津波対応としては、多重防御施設の高盛土道路として都市計画道路南光門脇線が計画されている。この道路より北の約23.4haの区域は、土地区画整理事業により、被災者の速やかな生活基盤の形成のための宅地整備を行うこととされているが、この道路より南の区域については、災害危険区域に指定され、内陸部への集団移転が予定されている。

当公園は、石巻市震災復興基本計画の未来への伝承プロジェクトの中で、シンボル公園整備事業として位置づけられている。シンボル公園整備事業では、鎮魂の森や多目的広場の整備が計画されている。

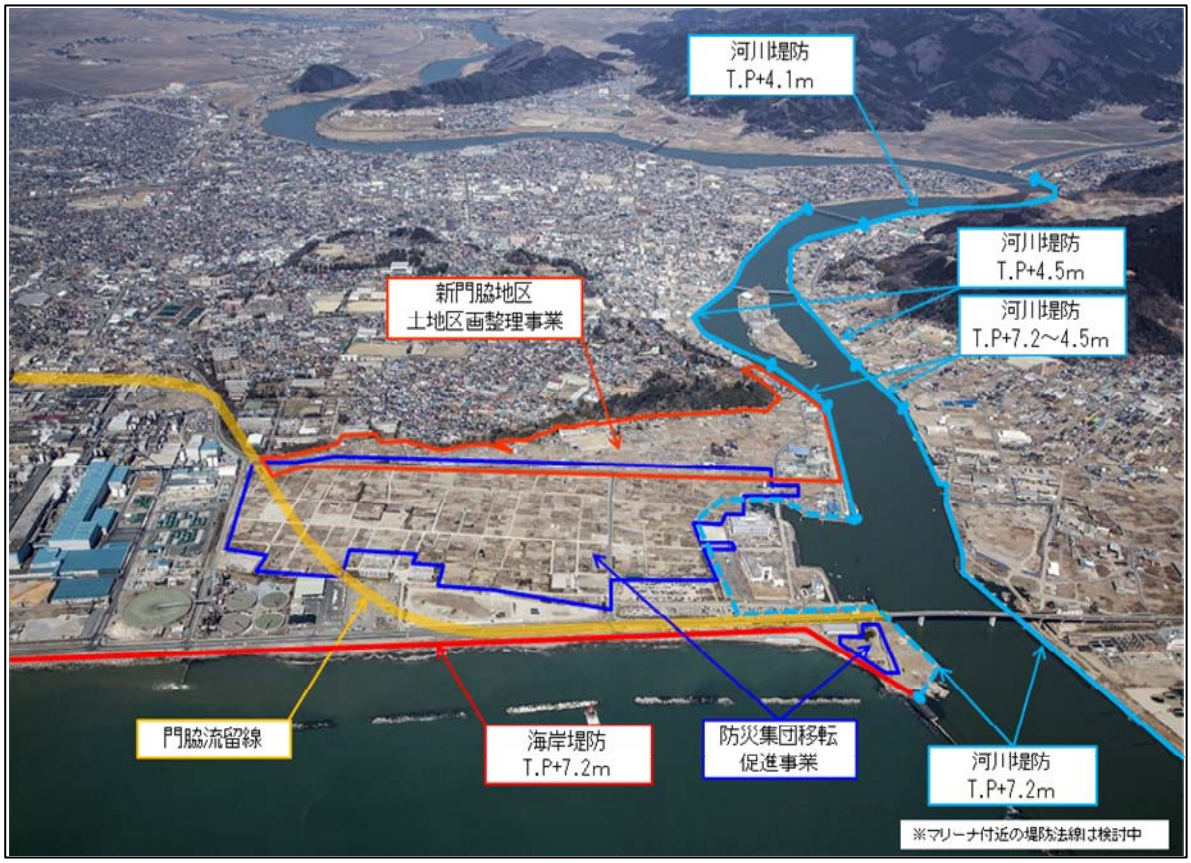
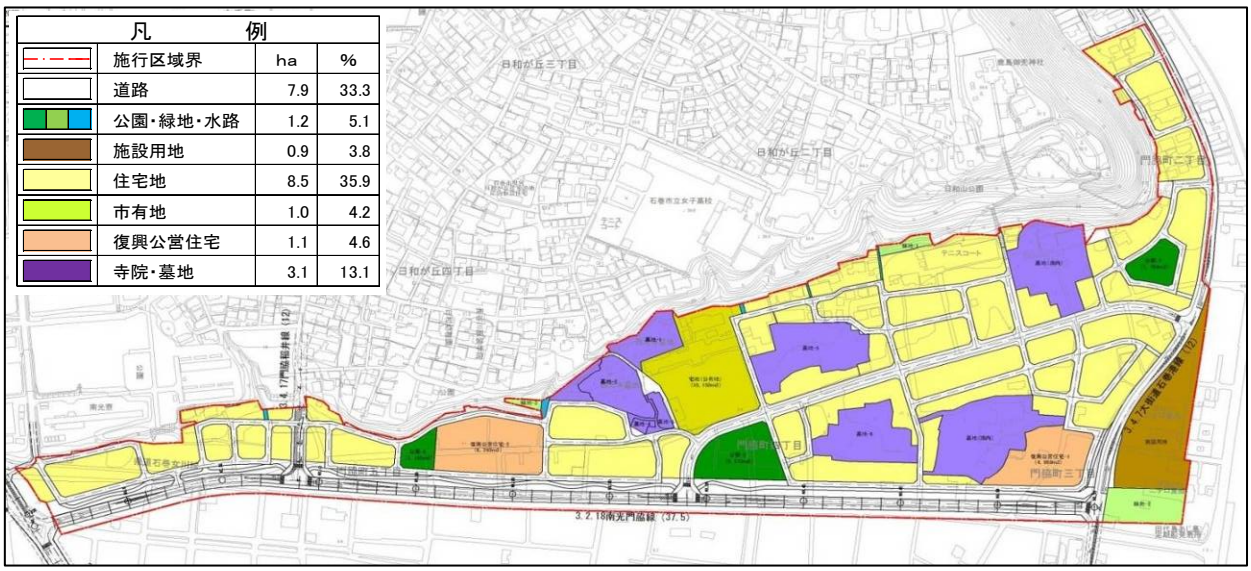



図 14　南浜地区周辺の主な復興事業　2013 年(平成 25 年)3 月 22 日撮影



| 凡　例 | | |
|---|---|---|
| 施行区域界 | ha | % |
| 道路 | 7.9 | 33.3 |
| 公園・緑地・水路 | 1.2 | 5.1 |
| 施設用地 | 0.9 | 3.8 |
| 住宅地 | 8.5 | 35.9 |
| 市有地 | 1.0 | 4.2 |
| 復興公営住宅 | 1.1 | 4.6 |
| 寺院・墓地 | 3.1 | 13.1 |



図 15　新門脇地区土地区画整理事業の土地利用計画　資料提供：石巻市・UR

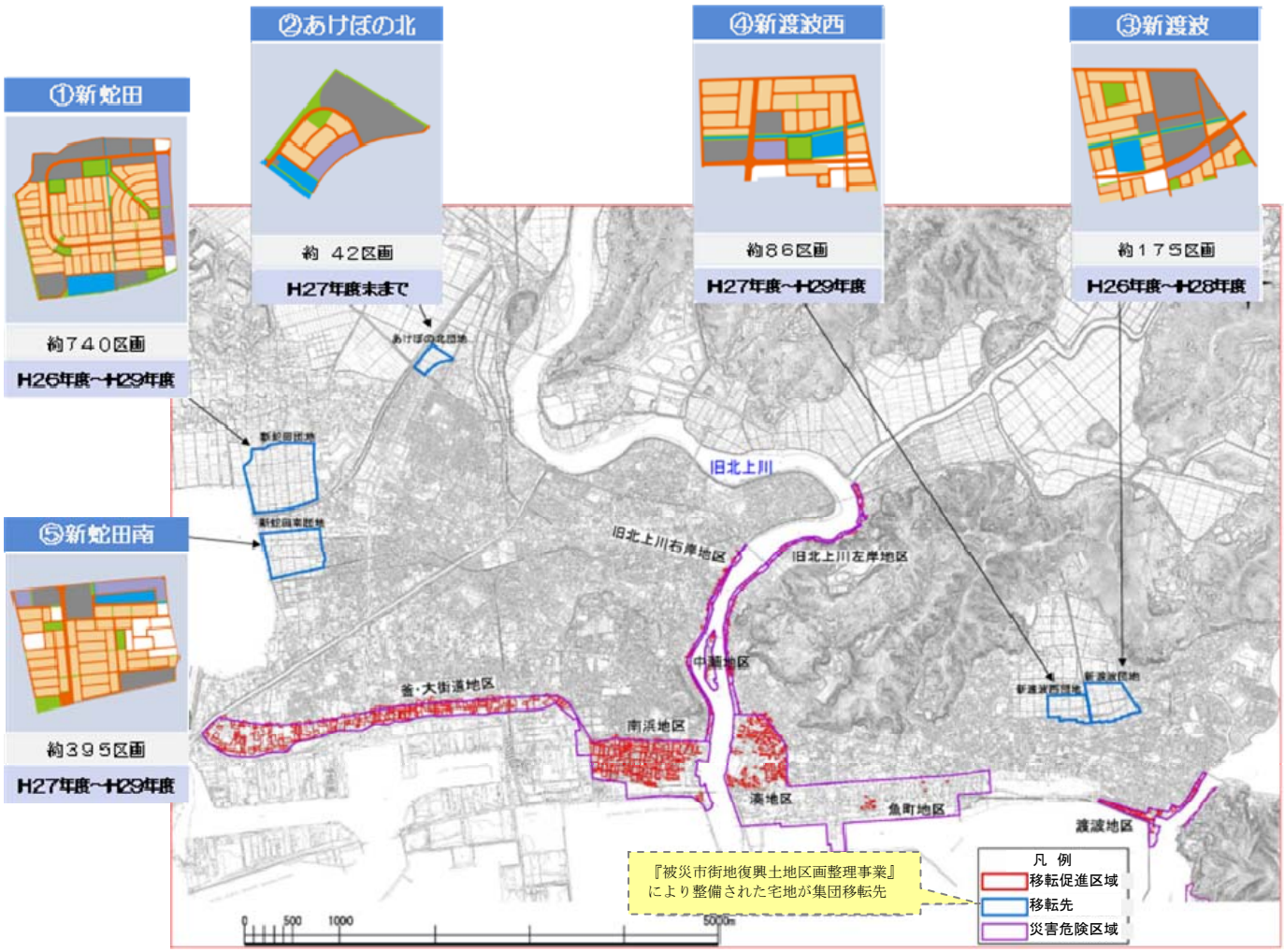



図 16　防災集団移転促進事業における災害危険区域・移転促進区域と移転先

※平成 26 年 1 月現在